

開発 教育 ニュースレター

A Happy New Year
to The World.



No. 40

1993. 1

エチオピアのコーヒーハウス

エチオピアは、コーヒーの原産地といわれています。

大島芳雄（神奈川）

第4回 開発教育ワークショップ

(報告：山西優二)

開発教育協議会の第4回開発教育ワークショップが、11月21日～23日の2泊3日の日程で、25名(教員10名、学生7名、地方自治体・NGO関係者など8名)の参加のもと、東京八王子の大学セミナーハウスにて開催された。

今回のテーマは、「主体的に学ぶ開発教育を求めて - 開発教育以外の開発教育教材を参考にして」であった。それは、今まで協議会において、方法論に対する検討が十分ではなかったとの認識から、開発教育以外の教材を参考にしつつ、方法論的議論を深めることをめざすものであった。全体会そしてグループ別作業において、ランキング、ゲーム、シミュレーション、ロールプレイ、プランニング、ルールメイキング、調査などの方法論的特色が、事例をもとに確認され、さらにはバングラデシュを題材にして、主体的そして参加型授業の創造と教材の作成に向け、熱心な議論・作業が行なわれた。

作業過程や作成された教材の詳細は、機関誌の第24号に掲載される予定です。乞うご期待！



Local Action 1

開発教育実践研究会 - 地球市民の輪を広げよう -

(報告：好光 紀・原 庸子)

去る12月5日(土)、6日(日)の2日間、東京の青年海外協力隊広尾訓練所において、「開発教育実践研究会 - 地球市民の輪を広げよう -」が、約160人の参加者を得て行なわれました。これは、青年海外協力隊経験者と開発教育に関心を持つ一般の人々が一堂に会し、開発教育の経験を深め、その経験を交換しながら活動を広げていくことを目的に(株)協力隊を育てる会の主催で開催されたものです。

協力隊を育てる会の中根千枝会長の記念講演の後7つの分科会発題者による各分科会の紹介がなされました。分科会では、さまざまな場 - 学校教育、社会教育等 - での、さまざまな方法 - 日常の授業、スタディツアー、環境教育とともに、イベントを通して等 - による開発教育を取り上げることにより、開発教育を進めていくための課題や問題解決の道を探ることを目的に、活発な話し合いが持たれました。

その分科会の1つ「スタディツアーで生かす」では、まず発題者である松戸市立第一中学校教諭の高野彰夫さんから、生徒会の代表8名と教師2名で行なった「タイ交流スタディツアー」の報告があり、それをもとに、上田啓子さんの司会で、参加者全員が発言できるように進められました。

スタディツアーが、現地体験の実践として、よい

方法の一つであることは、全員の意見の一致するところでしたが、実施する際には、学校管理者(教育委員会の対応もふくめて)の理解を得ることが今後の課題であるという指摘もありました。しかし、アフリカ救援の募金活動から始まった生徒会活動が、5、6年後にタイ・スタディツアーを実施するまでに発展した事実には、参加者全員が拍手を送りました。高野さんの前任校での体験に加えて、日頃の生徒会活動の中に地域の老人ホームでの世代間の交流があったからこそ、地域間の交流もより深まりのあるものが可能となったのでしょう。

その後、夜の懇親会では、多くの新しい出会い、懐かしい再開があちこちで見られました。

2日目は、前日の分科会の報告が行なわれた後、「学校教育」、「社会教育」という2つの場に分かれての開発教育のプラン作成と、シャプラニールの協力を得てのバングラデシュのカレー作りという3つのワークショップが行なわれました。前日の分科会の成果を生かして新しいさまざまなアイデアも発表され、充実したひと時となりました。その後、バングラデシュ・カレーを皆で手でいただき、まとめのフォーラムへと続き、2日間の全日程を終了しました。



開発教育実践者講座

1992.11.14~15 神奈川県立足柄ふれあいの村

報告：佐藤智子 (株)協力隊を育てる会)

神奈川県国際交流課の主催するこの講座は、神奈川県内で開発教育をすでに行なっている方々を対象とした、関係者を含めても20人という少数精鋭の会でした。

まず、東和大学国際教育研究所の赤石和則講師より「開発教育の現状と課題」についてお話。

世界での開発教育の歩みを確認した上で、開発教育情報センターが発達しているカナダの例や、今までの開発教育の限界であった「特定地域を対象に行なっているNGOの資金集め」的性格を越えて、新しい世界秩序の再編への提言という役割を持たせようと、「Education for Global Change」という呼び方が出てきたアメリカなどの動きを紹介。そして日本の開発教育の歩みに触れて、3つの問題提起をしました。一つは日本の教育に漠然とある価値教育に対して、対抗するものであるという意識を持つ必要があるのではないかと、二つめは「開発」の捉え方がどうなのかしっかりと把握すること、三つめは、開発教育はプロセスであり、それによって伝えようとするもの、目指そうとするものが何なのか議論が不足しているのではないかとという提起でした。それぞれ、参加者には頭の痛い提起で、この問題提起が2日間の講座の軸とされていました。

次に、鎌倉市立七里ヶ浜小学校の千葉 保教諭より、子供たちが大好きなハンバーガーを素材にして実践発表。

マクドナルドの店がいくつあるのかなど、どれほどハンバーガーがたくさん食べられているのかを理解させながら、材料がどこから来ているのか、養牛のために中南米で熱帯雨林がどれほど伐採されているのか、作っているにも関わらず、地域住民は輸出のためかつてより食べる量はどれほど減っているのかなど、クイズ形式で生徒をひきつけながら、身近なところから南北問題を理解するよう進められる授業はたいへん参考になりました。忙しいにもかかわらず、詳しいデータを自分の足で集められる先生の努力には脱帽です。

そして夕食後、「開発教育の実践に必要なこと」をテーマに2つのグループに分かれて意見を出し合い、深夜にわたって議論を戦わせ、引き続き翌朝にまとめて「開発教育9ヶ条」として発表しあいました。それが図のとおりです。

ゆったりした時間のなかでお互いの情報交換、ネットワークができて、とても有意義だったと思います。会場の「足柄ふれあいの村」は紅葉が真っ盛り。森の中に山小屋のような小さなコテージがたくさんあり、使い易さだけでなく、自然の美しさを壊さないということにも配慮して作られています。地球や人間のことを考えるには、やはり自然に触れながらできる、こうした会場がぴったり。開発教育にぜひ利用してほしいということですので、機会があったらいかがですか。



開発教育9ヶ条

- 1 地理的、世代的にグローバルな認識を
- 同時代的責任、世代間的責任
- 2 自分の考えを持ち、積極的に表現する。
- 3 社会問題を解決する実践者がそのまま教育実践の主体であること。「ほんもの」が必要。
- 4 小さなことでも具体的に始めるようにつなげる。
- 5 多様な価値、方法の承認。
- 6 あそび心、ゆとり、長く、肩の力を抜く。
- 7 エコロジーの生き方。
- 8 学校、社会ともに開発教育の機会を増やす制度を広げる。
- 9 学校の機能の精選。

ユニセフからアフリカ広報キットと年次報告

ユニセフでは昨年9月に1992年年次報告を、11月にアフリカ広報キットを刊行した。年次報告には、1991年における国際レベルのユニセフ活動の総合的な報告と日本ユニセフ協会の報告が含まれている。広報キットはアフリカの子どもたちという表題のもので、子どもの写真とアフリカの子どもの状態の概観、ユニセフの緊急援助プロジェクトの状況などの文字資料がセットになっている。

希望者には、在庫がある限り、いずれも部数限定で無料提供している。〒160 東京都新宿区大京町31-10 日本ユニセフ協会協力事業部まで問い合わせのこと。TEL03-3355-3221, FAX03-3355-3810。

UNHCR駐日事務所から

季刊『難民』と緊急レポート

国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所は、1992年第2号の機関誌「難民Refugees」を昨年11月に刊行した。難民と環境が特別報告として取り上げられている。また10月には旧ユーゴスラビアの難民状況を緊急レポートとして報告している。それによると旧ユーゴスラビアの難民推計数は211万人（うち150万人はボスニア・ヘルツェゴビナから）に達し、近隣諸国には55万人が庇護されているという。その人道援助のための経費は434百万ドルが見込まれているが、昨年10月現在での拠出金は184百万ドル。日本は政府の18百万ドルのほかに民間から5千万ドルが拠出されている。

この広報資料は〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館19階 UNHCR駐日事務所で無料配布されている（ただし送料は自己負担）。

1993年世界子ども白書

ユニセフでは1993年の世界子供白書を発表し、その日本語版がユニセフ駐日代表事務所から出版された。

白書は四つの特集と統計から成っているが、その一つ、怠慢の時代と配慮の時代では、子どもの基本的ニーズを満たすためには、子どものための世界サミットで合意したように、年間250億ドルの追加支出すれば、10年以内に目標に達するだろうとしている。この金額は日本の企業の年間交際費よりも10億ドルも下回るのである。なおOECD加盟国の2国間政府援助額（ODA）のうち、基本的ニーズにあてられた比率は6.3%に過ぎないことを、仮の計算だが、明らかにしている。それによると、日本のODAは2.7%を基本的ニーズにあてているとされているが、これは18か国中16位である。

白書では子どものための世界サミットと児童の権利に関する条約の経過報告を紹介している。世界サミット宣言に署名した国は139か国、児童の権利条約に批准した国は122か国になっている。日本のこの条約批准は次の通常国会へ継続審議になったことは周知の通りである。また日本は世界サミットに基づいて国別行動計画を完成した国とされているが、寡聞にして、いつどんな経過で、どんな計画が策定されているのか、不明のままである。ご存じの方がいらっしゃったら教えてください。

この白書は残部のある限り日本ユニセフ協会で購入できるはずである。東京都新宿区大京町31-10の同協会まで問い合わせを。



『世界と日本の先住民族』 上村英明 岩波ブックレットNO. 281

（報告：木下理仁）

1993年は、国連が定めた「国際先住民年」です。開発教育のなかでも、1つのテーマとして、「人権」あるいは「環境保護」の問題などに関連して、「先住民族」のことが取り上げられる機会も増えてくるのではないのでしょうか。

この本は、まず世界の先住民族の歴史を押えたうえで、それらの人々が直面している問題 - 差別や環境破壊について述べ、そうした問題の解決に向けて行なわれている、さまざまな草の根レベルの、あるいは世界的な運動を紹介しています。わずか60頁ほどの小冊子ですが、この問題について考えるうえでの格好の入門書であると言えます。

著者の上村英明さんは、「市民外交センター」というNGOの代表として、平和、人権、環境を守る草の根レベルのネットワーク作りを続けている、若手の研究者です。昨年からは、「先住民・市民ネット」という新しいネットワークを作り、先住民族の問題とその解決に向けての取り組みを知らせるためのニュースレター『バナナ通信』も発行されています。

問合せは、市民外交センター（〒181 東京都三鷹市下連雀 2-10-38-201 ☎0422-47-9780）まで。

世界と日本の先住民族

上村英明 岩波ブックレットNO. 281



コンピュータで開発教育を!?

こんなコンピュータ・ソフトが売り出されたそうです。なかなかおもしろそうですが、はたして、開発教育に使うことができるのでしょうか。もし、実際に使ってみたという方がいらっしゃいましたら、協議会のニュースレター編集チームまでご連絡ください。

BALANCE OF THE PLANET

環境問題をテーマに作られた、一種のシミュレーション・ゲーム。プレイヤーは、国連の環境問題高等弁務官として、環境問題に取り組む。与えられた権限は、各種産業に対する課税額の決定と、さまざまな研究に与える補助金の比率の決定だけ。その権限だけでどれほど地球が変わっていくか、環境問題の複雑さを見ることができるという。

たとえば、「フロン税」のコントロールは、「フロンの生産」に影響を与えるが、その影響は「工業原料」へ、さらに「工業生産」へと波及し、最後には生活そのものにも影響を与えることになる。また「フロンの生産」は「対流圏のフロン」へと影響しその影響は、「地球の温度」「成層圏のフロン」「海面」「オゾン」「紫外線」「穀物の生産率」「植物性プランクトン」「海産物」「食料の供給」など予想しないところにまで波及していく。

複雑に絡み合った因果関係を考慮に入れながら、一人の人間に何ができるのかを考えさせてくれるというのである。

PC Globe

世界の国々に関するさまざまな情報を取り出すことのできる、ビジュアルなデータ・ベース・システム。

各国の人口、年齢分布、言語・人種・民族・宗教がグラフで示されるほか、健康状態の統計、教育、政治、GNP、資源、産業、輸出入、文化、気候などのデータが入っており、例えば「病院ベッド数」や「教師1人あたりの生徒数」などといった細かいデータまで見ることができる。

メーカーでは、従来の地図や百科事典の代わりとして、会社での資料作成や学校教育などに使えると言っている。

これら2つのソフトは、PC-9800シリーズに対応。詳細についての問合せは、いずれも

〒144 東京都大田区蒲田 5-28-4
明治生命蒲田東ビル
㈱アクレイトジャパン

まで。

開発教育国際フォーラム

“地域”は“世界”を変えていく

ボランティア募集中!

1月29日(金)・30日(土)・31日(日)の3日間、横浜で開発教育の国際フォーラムが開催される。主催は、開発教育協議会、国際協力推進協会、NGO活動推進センター、横浜YMCAなど8つの団体及び自治体で構成される、開発教育国際フォーラム実行委員会。

イギリスのOXFAM、オランダの国際連帯活動センター、ユニセフのニューヨーク本部などから海外参加者を迎え、「21世紀に向けての開発教育のアクションプラン」の提示に向けて、さまざまな角度から開発教育の検討、話し合いの場が持たれる。

ユニークなのは、10の分科会のうちいくつかで“体験トリップ”が予定されていることで、参加者は実際に神奈川県内の開発教育の現場を訪ね、そこでゲストスピーカーをまじえた話し合いに参加することになる。

なお現在、実行委員会事務局で、このフォーラムの裏方を支える“運営ボランティア”及び“通訳ボランティア”を募集しているの、関心のある方はぜひ連絡を。

とき 1月29日(金) 16:00~20:40
30日(土) 9:30~18:00
31日(日) 9:30~14:30

ところ 横浜女性フォーラム
(JR戸塚駅より徒歩5分)

問合せ ☎045-671-7012

Topics

広がる南北格差

国連の人間開発報告(Human Development Report)によると、南北の経済格差は拡大する一方のようである。1960年には世界人口の20%を占める富裕国は、一人当たり所得において、世界人口の20%を占める最貧困国の一人当たり所得の30倍となっていたが、1989年には、それが60倍にも拡大している。国内の格差を計算するとともに悪くなる。恐らく上位20%は下位20%の150倍の所得になるだろう。

貧困国は貧者と同じように、銀行資金を借りれないし、投資家もみつからない。世界の最貧困層20%は世界の商業銀行の貸出額の0.2%、世界の投資総額の1.3%、世界貿易の1%そして世界総所得の1.4%しか手にしていない。

国際理解教育研修プログラム

グローバル・セミナー'93

2月6日・7日の2日間、(株)日本ユネスコ協会連盟、日本国際理解教育学会、国際理解教育資料情報センター(ERIC)の共催で、「国際理解教育研修プログラム・グローバル・セミナー'93」が、大阪YMCA会館にて開催される。

このセミナーは、アメリカから、『食料カリキュラム』(米国の食糧・開発政策研究所)の著者であるローリー・ルービン氏を講師として招くほか、模擬授業を体験したうえで、参加者の手で実際に授業案・活動案を作ってみようというもの。

プログラム

2月6日(土)

- 14:00 開会
- 14:10 基調講演1「豊かなアジア、貧しい日本」
講師：中村尚司(龍谷大学経済学部教授)
- 14:50 基調講演2「カリキュラムづくりの楽しさ、難しさ」
講師：ローリー・ルービン
- 15:45 質疑応答
- 17:00 研修1 テーマ別体験学習
①「朝食も地球規模のできごとだ」他
②「外国人労働者ロールプレイ」他
③身近な問題から人権感覚を育てる
④自分を知らう、友だちを知らう
- 20:00 終了

2月7日(日)

- 9:00 研修2 テーマ別体験学習
①「朝食も地球規模のできごとだ」他
②「外国人労働者ロールプレイ」他
③身近な問題から人権感覚を育てる
④写真やゲームを使った
授業・活動の組み立て
- 10:45 研修3 研修1、2を参考にしながら、
自分達の授業・活動案を作ってみる
- 12:00 昼食
- 13:00 研修3(つづき) 実際に紹介しあう
- 15:45 反省と閉会

とき 2月6日(土)・7日(日)
ところ 大阪YMCA会館(大阪市西区)
対象 教員および教育関係者
参加費 3000円
(基調講演のみ参加の場合は、1000円)

問合せ 〒163-06
新宿センタービル 私書箱4004号
(株)日本ユネスコ協会連盟
グローバル・セミナー係
☎03-3340-3921

エイズの南北問題

日本でも折に触れてエイズ問題が取り上げられ、文部省でも対エイズ指導の手引を改訂することが報道されたりしているが、このところの世界のエイズ報道は、エイズ蔓延がもたらす別の側面に気づかせてくれる。

エイズは異性間性交渉が伝染の85%を占めるにいたっているといわれるが、それが今のままの勢いでいくと、2010年ごろには世界のエイズ患者は10億人に達するだろうと、さきごろ、アメリカの研究者が警告した。そしてエイズウイルスは、世界すべての国を平等に襲っているのではない。

WHO(世界保健機構)の推計によると、現在のエイズ患者の三分の二は発展途上国の人々だといわれる。それが2010年には、エイ

ズ患者の90%は発展途上国となるだろうというのである。エイズによる人口減少地域の出現予測すらあるようだ。現在ではサハラ以南のアフリカ諸国がエイズ患者のもっとも多い地域だが、南アジアと東南アジアのエイズ患者の増加率には著しいものがあると警告されている。ラテンアメリカとカリブ海地域でも増加率は高い。

その結果、成人エイズ患者を多く抱えるようになる発展途上国の経済は、大きな打撃を受けることになる。生産力人口が減少し、したがって生産性が落ち、市場規模も投資も減退していく、というのである。それに膨大なエイズ治療費が加わる。アメリカでは感染者一人年間一千万の治療費だそうである。21世紀の人類社会にはエイズによる思わぬ展開があるのかもしれない。

Membership

新入会員

- 渡辺かよ子(三重) 菅直美(神奈川) 新倉久乃(千葉) 一輪せつこ(岩手)
- 巢瀬奈緒美(東京) 木村暁雄(神奈川) 平野芳裕(東京) 市岡美奈(神奈川)
- 斉藤裕子(東京) 大本良子(東京) 米山敏裕(東京) 佐々木達也(宮城)
- 佐藤隆洋(群馬) 坂山英治(高知) 本田公子(東京) 山本恵子(愛知)
- 金森智栄(静岡) Nozomi Spennemann(ドイツ) 河西庸子(東京) 竹内淑子(神奈川)
- 舟岡美知代(栃木) 後藤孝太郎(大分) 山崎めぐみ(和歌山) 斉藤紀子(鹿児島)
- 木内清(長野) 中村智子(東京) 鈴木修(神奈川) 山本佳恵(東京)
- 阿部治(埼玉)

継続会員

- 奥田昭応(東京) 林川玉輝(神奈川) 安藤豊(北海道) 日々野真士(東京)
- 太田佳孝(東京) 大津和子(北海道) 長谷川正利(神奈川) 由衛英樹(神奈川)
- 鳥山孟郎(神奈川) 坂田喜子(千葉) 岡野内正(東京) 松尾索(東京)
- 千葉千佳(東京) 傍島剛司(岐阜) 竹内啓二(千葉) 高塚康子(東京)
- 清水健二(東京) 馬場清(東京) 重田康博(東京) 金尾有理子(神奈川)
- 大久保静人(神奈川) 鈴木優子(埼玉) 竹森洋子(奈良) 高山正代(千葉)
- 西脇保幸(千葉) 森田茂(埼玉) 富里るみ子(沖縄) 栗山元一(大阪)
- 石井直子(和歌山) 栗原豊(埼玉) 藤村コノエ(神奈川) 桂暎雄(京都)
- 高橋千夏(京都) 談義善弘(和歌山) 稲生優子(東京) 中野真理子(東京)
- 村上登司之(京都) 町田裕(埼玉) 千葉大健(宮城) 佐々木裕子(東京)
- 中野スミ子(東京) 望月浩明(神奈川) 深津高子(東京) 大井智弘(埼玉)
- 金沢はるえ(埼玉) 岡憲司(大阪) 永井秀明(広島) 澤崎洋介(大阪)
- 大場孝弘(京都) 蓮沼美栄(神奈川) 長谷川和子(兵庫) 角田埋(山形)
- 木下淳(埼玉) 富安正(東京) 阿見拓男(栃木) 竹内裕一(東京)
- 山田俊弘(千葉) 木村利英子(神奈川) 千布浩行(佐賀) 前川実(大阪)
- 酒井励子(神奈川) 大柿裕美(埼玉) 口村圭乃(大阪) 石川信克(東京)
- 長瀬修(神奈川) 風巻浩(神奈川) 北俊夫(埼玉) 栗又衛(茨城)
- 原真一(愛知) 成田美雪(山梨) 吉村慶一(神奈川) 寺西和子(愛知)
- 水野直美(東京) 山崎正気(神奈川) 吉田正(大阪) 山口昌郎(千葉)
- 吉開清(千葉) 大木真一(岩手) 斉藤皓彦(鳥取) 田中和徳(新潟)
- 善財利治(千葉) 羽佐田透一(愛知)

以上、いずれも1992年10月20日~12月28日受付分、敬称略、受付順

地球共感シンポジウム '93

地球の環境問題、未開発。過剰開発についてのシンポジウム。

と き 3月20日～21日
 ところ 佐賀市内
 問合せ ☎0952-24-3334
 (地球市民の会)

地球子どもサミット

タイをはじめとする世界各国から、子供たち約50人を招き、ホームステイなどをしてもらいながら交流を深める。

と き 3月24日～4月7日
 ところ 佐賀市内
 問合せ ☎0952-24-3334
 (地球市民の会)

第10回国際フォーラム「Spring Typhoon」 (アジア音楽祭)

フィリピン、韓国、インド、日本のアーティストが出演するアジア音楽祭。

と き 3月6日
 ところ 大阪市 安治田モダホール
 問合せ ☎06-773-0256
 (国際文化交流協会)

わいわいとーキング

地球どんぶり

神奈川県国際交流協会が毎月、満月の夜に行なっている催し。さまざまなゲストを迎え、座談会形式で意見交換をする。

2月のゲストは辻 淑子さん。日本とタイの学校の先生どうしの交流を進めている「教育交流コーディネーター」。この1月にタイの村の小学校の先生を日本に招き、各地の学校を一緒に訪問したときのことを中心に話を聞く。

と き 2月8日(月) 18:30～20:30
 ところ 神奈川県国際交流センター
 (横浜市中区)
 参加費 300円
 問合せ ☎045-671-7070
 (神奈川県国際交流協会)

フィリピンの子供たちのために ハロハロFランチ

アジア協会アジア友の会が、毎週金曜日にかけている催し。昼食を1000円で食べ、その収益金をフィリピンの子供たちの教育基金に寄付する。

と き 1月22日～2月26日
 の毎週金曜日
 ところ アジア協会集会室(大阪市)
 問合せ ☎06-444-0587
 (アジア協会アジア友の会)

川越南高校「自主講座」

『阿賀に生きる』上映会

埼玉県の川越南高校では、昨年4月から「私たちの生活、そしてアジア」をテーマに「自主講座」を開いている。

今回は、ドキュメンタリー映画『阿賀に生きる』の上映会。「私たちの生活」が忘れてしまったものが何だったのか、そして今、私たちがなぜ「アジア」を学ぶ必要があるのかを考える。

と き 1月23日(土) 14:00～16:30
 1月24日(日) 10:00～12:30
 ところ 川越南高校(埼玉県)
 参加費 1000円(上映協力金)
 問合せ ☎0492-44-5223
 (川越南高校 松本・小貫・加藤・岡田)

紙バルブ/植林に関する連続講座第2回

植林が環境を破壊する!!

日本人の需要を満たすために行なわれている大規模植林について、ソロモン諸島、フィジー、バブアニューギニアで調査を行なった清水靖子さん(日本カトリック正義と平和協議会/ODA調査研究会)らが報告する。

と き 1月21日(木) 18:00～21:00
 ところ 労政会館(JR飯田橋駅西口)
 問合せ ☎03-3770-6308
 (熱帯林行動ネットワーク)
 ☎03-3291-5902
 (アジア太平洋資料センター)
 ☎03-3834-2388
 (日本国際ボランティアセンター)

神奈川県立相模原高校公開講座 カンボジア難民とのふれあい パートII

- ① 2月13日(土)
 「1992年 カンボジア情勢」
 長瀬一哉(相模原高校教諭)
- ② 2月20日(土)
 「カンボジア現地視察報告
 -今、カンボジアは」
 長瀬一哉(相模原高校教諭)
- ③ 2月27日(土)
 「カンボジア文化入門
 -カンボジア語と日本語
 -アンコールワットについて」
 ベン=セタリン(東京外国語大講師)
 本橋 栄(元上智大学客員研究員)
- ④ 3月6日(土)
 「カンボジア難民帰還問題について」
 佐藤幸江(UNHCR広報官)
- ⑤ 3月13日(土)
 「カンボジア人と語り合おう
 -相模原市在住のカンボジア人の皆さんとフリートーク」
 長瀬一哉(相模原高校教諭)
 山瀬恵子(大和定住促進センター)
 那須芳恵(通訳)

時間 いずれも13:00～16:00
 申込み 往復はがきで1月23日までに

〒229 相模原市横山 1-7-20
 県立相模原高校コミュニティスクール係

問合せ ☎0427-52-4133



※ 読者の皆さんからの情報をお待ちしています。締切りは偶数月の15日。協議会事務局(ニューズレター係)宛にお送りください。

開発教育 ニュースレター

隔月刊

1993年 1月1日発行
 第40号

発行: 開発教育協議会
 〒169 東京都新宿区西早稲田
 2-3-18-61
 TEL: 03(3207)8085
 (月・水・金 10:00～18:00)
 FAX: 03(3207)0226

編集: ニュースレター編集チーム

お願い: ファックスには必ず「開発教育協議会」と宛名を明記してください。

編集室から……
 ■39号で文化祭の様子を紹介した神奈川県立伊志田高校の金尾先生から、記事をご覧になっての感想をいただきました。この場でお礼を申し上げます。ありがとうございます。
 ■ニューズレターの内容について、なんらかの反応をいただくと、私たちもやりがいがあります。
 ■今年もこのニューズレターの充実に向けて努力していきたいと思っております。ご協力をお願いいたします。(K)

開発教育協議会は、開発教育の推進に関心をもつ団体、個人であればどなたでも入会できます。会員の方には、協議会が発行する研究誌をはじめ、ニューズレターや研究会・ワークショップ等のお知らせをお届けします。また、研究会の参加費割引の特典もあります。会費は1年単位を基本とし、その額は次のとおりです(いずれも1口あたり)。
 団体会員 20,000円 / 個人会員 5,000円 / 学生会員 3,000円
 入会の手続きについては、協議会事務局にお問い合わせください。